

世界遺産講座

第22講

なぜ世界遺産を目指すのか

世界遺産講座第22講では、世界各国がなぜ世界遺産を目指しているのかということについて紹介します。

これまでの世界遺産講座では、世界遺産の制度や抱える課題などを紹介してきました。テレビや新聞で頻繁に目や耳にする「世界遺産」という言葉に少しは馴染みが出てきたでしょうか。一方、そもそもなぜ世界遺産を目指すのかという疑問も出てくることかと思えます。今回は各国、各地域がなぜ世界遺産の登録を目指しているか、その一般的な目的について紹介します。

法律などによる法的な保護措置によって守られるようになりました。これにより、世界遺産に対して開発の危険が及ばなくなり、未来へ適切に人類の宝を守り伝えることができるようになりました。世界遺産という制度の当初の目的であるとともに、最も重要な目的でもあります。

二つ目は地域への愛着や誇りの醸成です。世界遺産に登録されると、必ず世界各国から注目されるようになります。これまで載っていなかった観光ガイドブックに載るようになったり、新たな旅行商品が造成されたりすることもあつてでしょう。その地域の存在を知らない人にも魅力を伝えることができると、必然的に目される地域であると、必然的に

その地域への愛着や誇りが醸成されていくのではないのでしょうか。世界遺産がある地域に住むことができるのは全世界でもほんのわずかな人たちだけです。世界遺産の登録を契機に自らの地域に関心を持つ人も増えることでしょう。それにより、地域内での活動が活発化し、さらに魅力ある地域へと変わっていくことを各国、各地域は期待しています。

そして三つ目は地域ブランド力の向上です。前述したように、世界遺産に登録されると、世界各国からの注目度は急上昇します。その結果、国内外からの観光客数の増加が見込まれます。観光客が増加すると観光消費額も増加します。ただし、観光客数が増加するだけでは、オーバートリイズムが起これば、観光客自身にフラストレーションがたまるとともに、地域にも悪影響を与えます。そのため、受入れ側となる地域では世界遺産や地域の環境を守る取り組みが必要となります。さらに地域経済が活性化するために必要な消費を促す必要もあります。実際に中国のある世界遺産では、世界遺産登録によって観光地化が進み、重要な構成資産の一つであった水路が汚染されたり、騒音が酷くなるなどし、従

来から住み続けていた住民が転出し、代わりに観光事業者が転入してきました。その結果、良好な景観を創出している建物の内装や利用方法が現代化し、伝統工法で構成されている建物の本質的価値が失われようとしています。このような事態を引き起こさないためにも観光客数のコントロールと、地域住民を支える積極的な消費を促す仕組みが必要となっています。今後、世界遺産は増加しますが、各国、各地域は登録後も視野に入れた取り組みが必要といえます。世界遺産登録により、地域ブランドが向上することによる新たな課題は出てきますが、それは地域をさらに活性化する機会でもありません。

今回の講座では、世界遺産の登録を目指す目的を紹介してきました。世界遺産と普段の生活が全く関係ないように思う場合もありますが、実はかなり関わりがあることを理解していただけたでしょうか。日本にも現在25の世界遺産があります。世界遺産を訪れる際は、登録によって地域がどのように変化したかを観察したり、今後どのように変化するかを見守ることにより、違った見え方ができるかもしれませぬ。

(明日香村総合政策課)